

【樹木・草花の部屋】

ケイカ（スイカズラ科ガマズミ属 *Viburnum Macrocephalum* Fort）

和名；ケイカ(瓊花) **別名**；聚八仙（八仙花）**英名**；

マツムシソウ目 半常緑低木

原産地；中国 **花言葉**； **花の色**；白



← 写真－1 ケイカの樹形

撮影日：2013年5月5日

撮影場所：奈良市唐招提寺にて

撮影者：Mさん

鑑真和上ゆかりの、奈良唐招提寺に咲いていました。TVで紹介されているのを見て、急遽、家内と唐招提寺へ……。よく考えると、唐招提寺を訪れるのは今回が初めて……。山門前はよく通りますが……。

鑑真和上の故郷である、江蘇省揚州市の

名花で、かつて隋の皇帝、煬帝が大変お気に召された為に門外不出になった貴重なお花。中心にほのかな甘い香の5mm程の薄黄色の正常花（両性花）を咲かせ、その周りに真っ白の装飾花8枚が囲む直径が15cmほどの花で(5月上旬に咲きます。ガクアジサイに似ています(アジサイはユキノシタ科で、装飾花は4弁)。

写真－2 ケイカの花 ⇒

撮影日：2013年5月5日

撮影場所：奈良市唐招提寺にて

撮影者：Mさん

現在、花を咲かせている瓊花は、鑑真和上遷化1200年の昭和38年（1963）に記念事業の一環として、中国仏教協会から贈られた一株の子だそうです。

日本では唐招提寺をはじめ、和上が上陸した鹿児島島の鑑真記念館、東大寺勸進所、法華寺、佐賀県立森林公園、井上靖の墓所など全国8箇所植栽され、鑑真和上様ゆかりの地にしか見当たらない希少な樹木だそうです。

現在の瓊花は、唐代の瓊花とはやや異にするもの。唐代の瓊花は、実を結ばず、同類の異木“聚八仙”に接木して育てたということです。1100年代、元軍によって根こそぎ持ち去られ絶えてしまい、やがて台木の“聚八仙”が「瓊(けい)花(か)」と呼ばれるようになったそうです。



【樹木・草花の部屋】



←写真-3 ケイカの花にチョウが

撮影日：2013年5月5日

撮影場所：奈良市唐招提寺にて

撮影者：Mさん